

うた芝居

うきうきどきどき
ざわざわ心のひだを
より深く

な・た・あかおに

原作/浜田廣介 演出/伊藤多恵 台本/山の音楽舎 作曲/川中美樹



ココロノヤサシイオニノウチデス
人間たらとなかよくくらしたいおには
戸口のまえに木の立て札を立てました
ところが...

いっばい笑って
ちよっぴり泣いて
うたとお芝居で嫌いなす
おもしろせつないうた芝居



おにはおろか!?



おに♪
おに♪



おに おらないか!?

おに おろか!?



人間の歌声と打楽器が創り出すシンプルな舞台。たった一枚の戸板の装置が回るたびに、村人の家、あかおにの家...と変化する。芝居の説明は極力少なめ。しかし、いえ、そのため子どもたちの集中はすごい。芝居の中にたくさんちりばめられた言葉遊び、身体表現。単純な言葉と動きの積み重ねてストーリーが運び、説明の少なさが舞台の役者たちの演技を際立たせ、それが、嬉しい楽しい。ラストがまた良い。書き置き一枚であおにの状況を知り、ウーへと泣き続けるあかおにを観ながら、悲しみや優しさで胸がいっぱいになる。良い芝居と出会った喜びは格別。(アンケートより)

作詳細はURL



今こそ、子どもたちに「生の舞台」を!

山の音楽舎のうた芝居は、お芝居と同じようにストーリーの展開と一緒に、ハラハラしたりワクワクしたり...そして、音楽の揺れに揺られてずきずきしたり、じーんとしたり...そんな風に、心がいっぱい動くのが、山の音楽舎のうた芝居です。